

12月8日は学園の創立記念日です。

この日はカトリック教会では罪の汚れない状態で誕生された聖母マリア様、つまり無原罪の聖母を祝う日としています。私たちの学園は、純粋でけがれない聖母の心から名をいただいて純心と名付けられました。そのためこの日を創立の日、学園の誕生日としています。

学園が創立されて87年、大学は26年の時を迎えました。皆さんはご自分の誕生日をどのように迎えておられますか。

ある卒業生が「私は自分の誕生日に自分の年齢の数の花を花束にして母に贈っています」それは、自分が今在るのは母が命懸けで私を生んでくれたからでその感謝を表したいからと。今、母親になってその有難さがさらによく分かるようになりましたと話してくれたことがあります。お母さんの思いをくみ取って生きている彼女の思いに感動したことが忘れられません。

学園の誕生日である創立の日を迎える思いは、この卒業生の思いと同様だろうと思います。どのような願いがあって学園が創立され、今なお引き継がれている心は何かを思い起こすとともに、時の経過においてどのように耕されて今日があるのかを思い起こす日、そして生きる日だと思います。

シスター江角は次のように語っておられます。

「理想を高く持ちましょう。理想をマリア様におくことで、優しく、人の心を喜ばせることができる子どもになることでしょう。そのように努力する子どもを育てたいと思って、純心学園は創立されたのです。誰がこの学園を創っていくかというあなた方一人一人なのです。」と。

シスター江角はこのような思いで学園に学ぶ学生・生徒たちに「マリア様のように紳さまと人々に喜ばれる女性」になるように励むことを勧められました。また、その実践方法として「マリア様、いやなことは私が喜んで」という学園標語を残して下さいました。

私たちを取りまく社会は、国内外を問わずコロナ禍における経済的不安や先の見えない不安、自然災害や平和を脅かす不穏な出来事や命の危機にさらされるなど予測困難な時代になりました。

このような時代に生きる私たちは、この創立の原点に立ち、建学の精神に照らして、自分たちのあるべき姿、とるべき行動をもう一度考え、私たちがどの方向に向かって歩み出せばよいのかを確認いたしましょう。

そして、純心スピリットを継承し、他者のためになる様々なことに関心をもって生きることによって世を照らす光となるよう決意を新たにしたいものです。

(2020年12月8日 学園の日に)